

尚綱大学短期大学部 教育情報及び財務情報の公表について

学校法人尚綱学園は、公共性の高い法人としての社会的責任を踏まえ、情報公開に取り組んでいます。当学園に対する皆様方のご理解とご協力を得ることを目的として、下記の基本情報を公開いたします。

1. 教育研究上の基礎的な情報

- (1) 各学科の名称及び教育研究上の目的
- (2) 専任教員数等
- (3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- (4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (5) 教材購入費

2. 修学上の情報等

- (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- (2) 入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）
- (3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数
- (4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数及び留年者数の推移
- (5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数
- (6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他
- (7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- (8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準
- (9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- (10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

3. 財務情報

- (1) 平成 22 年度財産目録
- (2) 平成 22 年度貸借対照表
- (3) 平成 22 年度資金収支計算書
- (4) 平成 22 年度消費収支計算書
- (5) 平成 22 年度事業報告書
- (6) 監事の監査報告書
- (7) 平成 22 年度決算の概要報告
- (8) 平成 23 年度の学生生徒数の状況

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1)各学科の名称及び教育研究上の目的

<総合生活学科>

現代社会において美しく快適に安心・安全に生活するコンセプトに基づき、生活と密接に関連した複数の分野を学び、男女共同参画社会において個性と能力を発揮できる人材の養成を目的とする。

<食物栄養学科>

栄養士養成課程としての基礎理論と専門性の高い実験・実習を学び、幅広い知識・技術・能力を身に付け、卒業後すぐに栄養士として社会で活躍できる実践力のある人材の養成を目的とする。

<幼児教育学科>

未来を担う子どものこころ、遊び、発達、健康などについて基礎的総合的な理解を深め、健やかで豊かな生活、遊びを導く実践的な保育者としての技量を養い、子どもに信頼され慕われる人間性豊かな幼稚園教諭、保育士の養成を目的とする。

(2)専任教員数等

学科ごとの専任教員数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学科名	教授		准教授		講師		助教		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
総合生活学科	0	1	6	1	0	1	0	0	6	3	9
食物栄養学科	1	3	2	0	0	1	0	0	3	4	7
幼児教育学科	5	1	2	3	1	2	0	0	8	6	14
計	6	5	10	4	1	4	0	0	17	16	30

法令上必要な専任教員数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

学科名	専任教員数					設置基準で定める最低専任教員数	
	教授	准教授	講師	助教	計	(イ)	(ロ)
総合生活学科	2	7	1	0	10	5 (2)	5 (2)
食物栄養学科	4	2	1	0	7	5 (2)	
幼児教育学科	6	5	3	0	14	10 (3)	
計	12	14	5	0	31	25 (9)	
備考	1. 「設置基準で定める教員数」欄の(イ)は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイ「学科の種類及び規模に応じ定める専任教員数」を示す。 2. 「設置基準で定める教員数」欄の(ロ)は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のロ「短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数」を示す。 3. 「設置基準で定める教員数」欄の(イ)及び(ロ)における教員数の()内は、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイの備考第 1 号に定める教授数(専任教員数の 3 割以上)を表す。						

専任教員の学科ごとの年齢別の構成（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学科名	職 位	70歳 以上	60歳～ 69歳	50歳～ 59歳	40歳～ 49歳	30歳～ 39歳	29歳 以下	計
総合生活学科	教授	0	0	1	0	0	0	1
	准教授	0	0	2	0	5	0	7
	講師	0	0	0	0	1	0	1
	助教	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	3	0	6	0	9
食物栄養学科	教授	0	2	2	0	0	0	4
	准教授	0	0	0	1	1	0	2
	講師	0	0	0	0	1	0	1
	助教	0	0	0	0	0	0	0
計		0	2	2	1	2	0	7
学科名	職 位	70歳 以上	60歳～ 69歳	50歳～ 59歳	40歳～ 49歳	30歳～ 39歳	29歳 以下	計
幼児教育学科	教授	0	4	2	0	0	0	6
	准教授	0	0	1	3	1	0	5
	講師	0	0	0	0	2	1	3
	助教	0	0	0	0	0	0	0
計		0	4	3	3	3	1	14

教員一人当たり学生数（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学科名	専任教員数 〔助手を除く〕	収容定員	在籍学生数			教員一人当たり 学生数	
			1年	2年	計	収容定員 基準	在籍学生 数基準
総合生活学科	10	200	64	86	150	20	15
食物栄養学科	7	160	88	94	182	22.8	26
幼児教育学科	14	300	166	166	332	21.4	23.7
合 計	31	660	318	346	664	21.3	21.4

収容定員充足率（平成23年5月1日現在）

（単位 人）

学科名	収容定員	在籍学生数			収容定員充足率 （％）
		1年	2年	計	
総合生活学科	200	64	86	150	75.0
食物栄養学科	160	88	94	182	113.7
幼児教育学科	300	166	166	332	110.7
合 計	660	318	346	664	100.6

専任教員と非常勤教員の比率（平成 23 年 5 月 1 日現在）

学科名	専任教員数	専任教員 による担当 授業科目数	非常勤教員 による担当 授業科目数	専任教員と非常勤の比率 (%)	
				専任	非常勤
総合生活学科	10 人	58	32	64.4	35.6
食物栄養学科	7 人	37	24	60.7	39.3
幼児教育学科	14 人	55	22	71.4	28.6
計	31 人	150	78	65.8	34.2

(3)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

校地・校舎の概要

本学は熊本市の楡木と九品寺に 2 つのキャンパスを有している。

楡木キャンパスは熊本市中心部から車で 30 分程の熊本市北東部のベッドタウンに位置し、大学の文化言語学部、短期大学部（幼児教育学科）及び短期大学部附属幼稚園がある。キャンパスの周辺は閑静な住宅街と豊かな自然環境に囲まれており、また、キャンパスの中央には手入れの行き届いた庭園が配置され、学生の憩いの場となっている。楡木キャンパスの校舎配置図は図 1 に、校舎の概要は表 1 に示すとおりである。

一方、九品寺キャンパスは熊本市の中心部に位置しており、学園本部、大学の生活科学部、短期大学部（総合生活学科、食物栄養学科）、高等学校及び中学校がある。九品寺キャンパスの校舎配置図は図 2 に、校舎の概要は表 2 に示すとおりである。

校地面積は 48,880 m²で短期大学設置基準上必要な面積（6,600 m²）の約 7.4 倍を確保している。また、校舎面積は 8,706 m²で短期大学設置基準上必要な面積（5,950 m²）の約 1.4 倍を確保している。

運動場・体育施設

幼児教育学科のある楡木キャンパスには体育館、運動場及びプールがある。体育館のメインアリーナはバスケットボールコートをもとに 2 面とれる広さがあり、その他に卓球場や多目的ホール、部室棟などの設備がある。楡木キャンパスの体育館、運動場及びプールは、いずれも大学の文化言語学部との共用である。一方、総合生活学科及び食物栄養学科のある九品寺キャンパスには、敷地内に大学の生活科学部や高等学校などの校舎があり、かつ、熊本市の中心部に位置することもあって、短期大学部専用の体育施設を設置するのに十分なスペースを有していない。

課外活動の状況及びその施設

九品寺キャンパス（総合生活学科・食物栄養学科）では、「写真同好会」、「ボランティアサークル」、「いけばな部」、「食育 LAB」、「ハンドクラフト」、「ESS」の文科系サークルがある。現在固定した部室はなく、学生ホールや教室を利用したり、学外に出向いて活動している。学生会は、楡木キャンパス学生会と協力し、学生総会、役員会、新入生歓迎行事、学園祭、スポーツ大会等の企画、運営、実施にあたっている。

楡木キャンパス（幼児教育学科）には、「バレーボール部」、「バスケットボール部」及び「バトミントン部」の体育系サークルと、「美術部」、「学生奉仕団」の文科系サークルがある。体

育系サークルは体育館の空き時間などを利用して活動し、部室は大学と共用の課外活動部室10室と大学1号館内に美術部室などがある。

休息を行う環境、その他の学習環境

	九品寺キャンパス	楡木キャンパス
学生の休息のための施設・空間	学生ホール約 100 席	短大部学生ホール約 100 席
保健室、カウンセリングルーム	保健室 養護教諭が常駐する ベッド数 2 床。予備 1 床 カウンセリングは保健室隣の応接室で行っている。	保健室 養護教諭が常駐する。 AED1 台 ベッド数 6 床 車椅子 1 台 カウンセリングルーム
食堂	大学学生食堂 営業時間 11:00～14:00 座席数約 195 席 自動販売機 3 台	大学学生ホール兼食堂 営業時間 11:00～14:00 座席数約 300 席
売店など	コンビニエンスストア (Y ショップ) 営業時間 8:00～17:00 ジュースなどの自動販売機 4 台 コピー機	売店営業時間 10:00～16:00 ジュースなどの自動販売機 4 台 ATM (肥後銀行) 1 台 コピー機

図1 楡木キャンパス校舎配置図

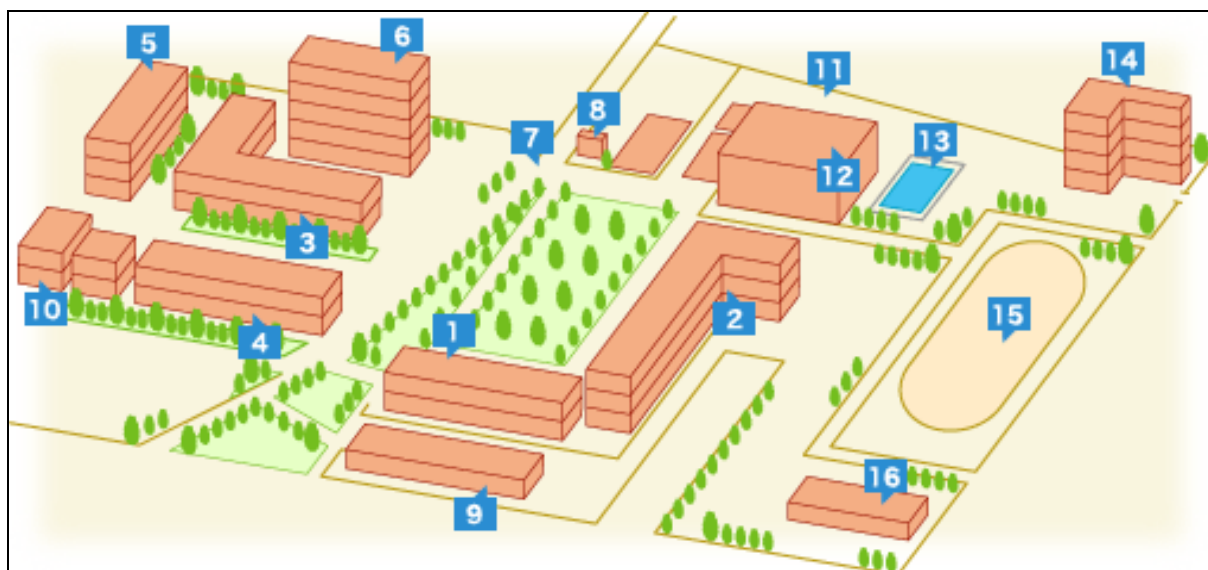


表1 楡木キャンパス校舎概要

1	大学1号館	1F 第1～第4講義室、学生会室 2F 研究室、文化言語研究室、第6講義室 3F 第7、第8講義室					
2	大学2・3号館	1F 第3演習室、第9～第12講義室 2F 図書館 3F 情報処理室、生物学教室					
3	短大1号館	1F 図工教室、茶室、学生会室、学生支援課、就職課、学生ホール 2F ピアノ個室、音楽教室、研究室、リトミック室					
4	短大2号館	1F 第1～第3講義室、実習指導室、研究室、子育て支援研究センター、雑誌閲覧室 2F ピアノ個室、第5講義室、ワープロ室、研究室、視聴覚室					
5	短大3号館	1F 調理実習室 2F 第6講義室 3F ピアノ個室					
6	管理棟	1F 事務局、保健室 2F 講師控室、理事長室、学長室、学園事務局長室、カウンセラー室(ルーム)、入試センター 3F 研究室、卒業論文研究室 4F 会議室、研究室 5F 大講義室					
7	正門	8	守衛室	9	学生食堂・売店 学生ホール	10	短大ロッカー室
11	駐輪場	12	体育館	13	プール	14	如蘭学寮
15	グラウンド	16	幼稚園園舎	17	大学ロッカー室		

図2 九品寺キャンパス校舎配置図

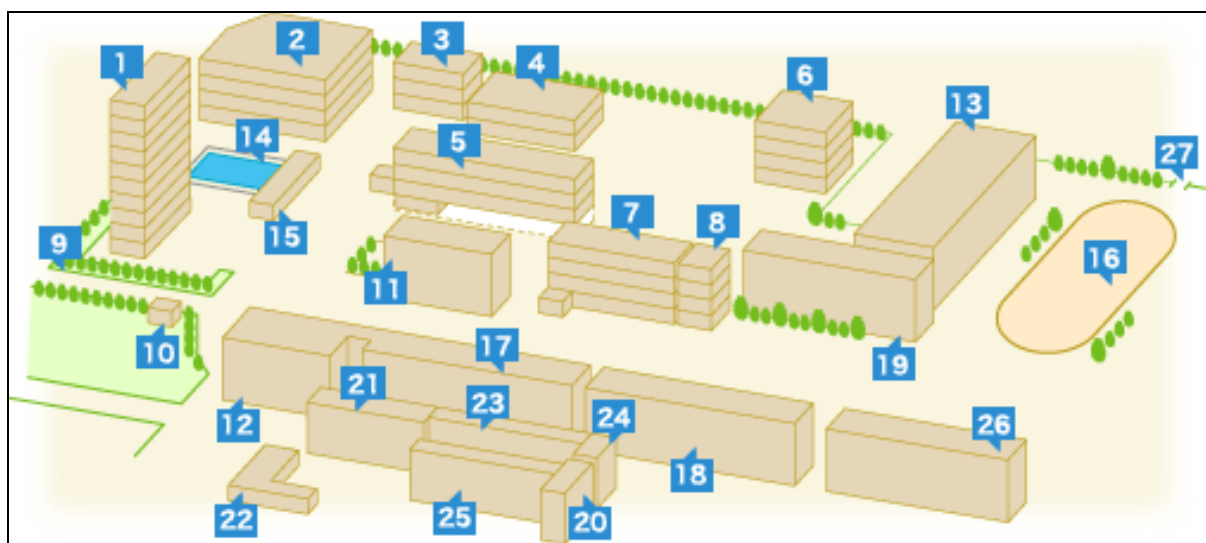


表2 九品寺キャンパス校舎概要

1	1号館	1F 学生食堂・売店 2F 学長室、大学事務局長室、1201号室、保健室 3F 1301号室、1302号室、大会議室、小会議室 4F 栄養調理実習室、更衣室 5F 栄養教育実習室、リフレッシュルーム、卒業研究室 6F 臨床栄養実習室、食品加工・食品学実習室 7F 精密機器室、卒業研究室 8F 教員室 9F セミナー室、教員室 10F 大講義室					
2	2号館	1F 給食経営管理実習室、試食室 2F 解剖生理病理臨床栄養研究室、共同実験室 3F 情報処理教室 4F 講堂					
3	3号館	BF 地下会議室 1F 3101号室、講師控室、学生支援課、就職課、就職資料室・就職指導室 2F 3201号室、3202号室 3F 3301号室					
4	4号館	1F 第2調理実習室、学生ホール、尚綱サポートセンター 2F デザイン演習室、衣服実習室、研究室					
5	5号館	BF 学生会室、卓球場、学生ロッカー室 1F 事務室、第3調理実習室 2F 学長室、認証評価事務室、5201号室、染色実習室、研究室 3F 生化学・食品化学実験室、食品衛生・解剖生理実習室、研究室					
6	6号館	1F 食品加工実習室1 2F 食品加工実習室2、6201号室 3F 研究室 4F 研究室、食物栄養学科実習助手室					
7	7号館	1F (高校図書館) 2F 7201号室 3F 図書館九品寺分館 4F 7401号室、7402号室					
8	8号館	1・2F 図書館書庫					
9	正門	10	守衛室	11	学園本部・中学校校舎	12	高校本館
13	総合体育館					16	グラウンド
17	高校校舎 第1号館	18	高校校舎 第2号館	19	高校校舎 第3号館	26	高校東校舎
27	裏門						

注) 図2における20から25の施設は九品寺寮であるが、九品寺キャンパス再開発に伴い平成22年度より廃止となり、順次解体される予定である。

情報サービス施設

楡木キャンパス、九品寺キャンパスともに情報処理教室が設置されている。座席数は楡木キャンパスの情報処理教室が 84 席、九品寺キャンパスの情報処理教室が 60 席である。また、学生用パソコン 2 台の間に中間モニターを設置し、教員用パソコンから画面情報や資料などを表示させて、学生が講義内容を理解するのに役立てている。いずれのキャンパスの情報処理教室も可動式のパーティションを設置しているため、教室を分割して利用することも可能である。

情報処理教室は、授業のない時間帯には学生に開放しており、学生は自習室として利用することも可能である。

その他の情報サービス施設としては、楡木キャンパスにおいては、就職資料室に 5 台、図書館に 7 台（図書館資料検索専用 4 台、インターネット閲覧専用 3 台）、学生ホールに 4 台のパソコンを、また、九品寺キャンパスにおいては、就職資料室に 3 台、図書館に 7 台、学生ホールに 10 台のパソコンを学生用に設置している。

図書館

「尚絅学園図書館」は、楡木キャンパスの「中央館」と九品寺キャンパスの「九品寺分館」及び「中学・高等学校分館」からなり、このうち「中央館」と「九品寺分館」が大学及び短期大学部専用の図書館である。中央館と九品寺分館の規模及び蔵書数を表 3 と表 4 に示す。

表 3 図書館の規模

図書館の名称	面積 (㎡)			学生閲覧室の座席数 (a)	学生収容定員 (b)	収容定員に対する座席数の割合 (%) (a) / (b) × 100	備考
	全体	閲覧スペース (内数)	書庫スペース (内数)				
尚絅学園図書館中央館	894	239	485	100	675	14.8	文化言語学部 350 名 短期大学部 300 名
尚絅学園図書館九品寺分館	673	363	257	104	660	15.8	生活科学部 300 名 短期大学部 360 名
計	1,567	602	742	204	1335	15.3	

表 4 図書館の蔵書数 (平成 23 年 5 月 1 日現在)

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類 (種類)
	図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書	外国書		
尚絅学園図書館中央館	110,442	110,442	96	21	1,866	0
尚絅学園図書館九品寺分館	124,620	73,559	107	10	1,412	0
計	235,062	184,001	203	31	3,278	0

<アクセスマップ>

楡木キャンパス



■ 尚綱大学・同短期大学部

文化言語学部：文化言語学科 短期大学部：幼児教育学科

■ 尚綱大学短期大学部附属幼稚園

■ 尚綱学園図書館中央館

J R	J R 豊肥本線 「武蔵塚駅」下車徒歩 20 分
バス	交通センター B ホーム 清水方面行き (新地団地經由泉ヶ丘行き、杉並台行き) 「尚綱学園・RKKグラウンド前」下車徒歩 1 分
タクシー	交通センターより約 25 分

〒861-8538 熊本市楡木 6 丁目 5-1

T E L 096-338-8840

F A X 096-338-9301

九品寺キャンパス



■尚絅大学・同短期大学部

生活科学部：栄養科学科 短期大学部：総合生活学科、食物栄養学科

■尚絅高等学校

■尚絅中学校

■尚絅学園図書館九品寺分館・中学高等学校図書館

J R ・ バス	J R 鹿児島本線 熊本駅下車 熊本都市バス第一環状線 大学病院方面まわり「尚絅校前」下車、徒歩1分 (逆まわりにご注意下さい)
	市電 (健軍行) 「九品寺交差点」下車、徒歩1分
タクシー	交通センターより10分

〒862-8678 熊本市九品寺2丁目6-78

T E L 096-362-2011

F A X 096-363-2975

(4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用 (平成23年度)

学科	入学金	授業料	施設設備資金	初年度合計
総合生活学科	220,000 円	620,000 円	180,000 円	1,020,000 円
食物栄養学科			230,000 円	1,070,000 円
幼児教育学科			180,000 円	1,020,000 円

※ 入学金は初年度のみ、納付となります。

※ 授業料、施設設備資金は年額であり、前期、後期に分納できます。

- ※ 各種免許、資格取得希望者の学外実習に要する費用、実験実習費、その他保険料（傷害、賠償責任）が別途必要です。
- ※ 既納の納付金等は、事由のいかんを問わず返却いたしませんのでご注意ください。
ただし、入学金を除く納付金は、入学する月の前月末日までに、文書（本学所定）で入学辞退による返還を求めた場合に限り返却します。
- ※ 一般入試及び大学入試センター試験利用入試ですでに入学手続きを済ませて、他の学部や学科をもう一度受験して合格した場合、入学金の振替ができます。

(5)教材購入費

本学においては、学生生活 2 年間の必要経費として、授業料、施設設備資金、実験実習費及び傷害保険料等の雑費の他、教科書等の教材費が必要である。その額は、授業内容等により年度によって必要額が異なってくるが、2 年間でおよそ以下のとおり見込まれる。

総合生活学科・・・・・・・・約 100,000 円 ～ 160,000 円

食物栄養学科・・・・・・・・約 90,000 円 ～ 110,000 円

幼児教育学科・・・・・・・・約 70,000 円 ～ 90,000 円

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

総合生活学科

食物栄養学科

幼児教育学科

(2) 入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）

<総合生活学科>

「自分らしく生きる」をキーワードに、自らの適性を発見し、進むべき職業や進路を決めることができるようカリキュラムを編成してあります。そこでこの学科では、女性の生活を様々な視点から考え、現代社会を生きるための高い知識と技術を身につけ、前向きに自らの人生をデザインしたいと思う学生を求めています。

具体的には次のような人を求めています。

- ・ 生活する上での様々なテーマ（衣料、食品、住居、教育、福祉、情報・経営）に興味があり、基本から体系的に学びたいと思っている人
- ・ 家族を始め、それを取巻く人々を大切に、地域社会に何らかの貢献をしたいと思っている人
- ・ 環境問題について関心があり、調和ある消費生活をしたと思っている人
- ・ IT（情報技術）を身につけ、これを現代社会で積極的に活用したい人
- ・ いろいろな分野の資格にチャレンジし、これを取得し、社会で生かし活躍したいと考えている人

<食物栄養学科>

「食物と栄養と健康」をキーワードに食の専門家である栄養士の資格を取得するためのカリキュラムを編成しています。そこでこの学科では栄養士として活躍できる様々な分野に必要な高い知識と技術を身につけ、健康を食の面から支え社会に役立ちたいと思う学生を求めています。

具体的には、次のような人を求めています。

- ・ 人の健康づくりに興味があり、基本から体系的に学びたいと思う人
- ・ 次世代を担う成長期の子どもを対象に食育の推進に貢献したい人
- ・ 疾病の予防と治療のための食事療法について学び、社会で生かし活躍したいと考えている人
- ・ 高齢者をはじめとする福祉の分野で食を通して生活の質の向上を支援したい人
- ・ 得られた知識と技術を家庭や地域社会の健康管理に役立てたいと思う人

<幼児教育学科>

子どもの傍らに寄り添い、子どもの成長、発達を豊かにはぐくむ確かな理論と実践力を身につけた保育者の育成をめざします。そのため子どもの世界に関心と意欲をもつ次のような学生を求めています。

- ・ 子どもが好きな人、子どものこころ、生活、遊びに関心をもつ人
- ・ 将来保育者の現場に立ちたいと考える人
- ・ 子どもの権利、福祉に関心をもつ人
- ・ 自己表現力を養うとともに、人(子ども)とのコミュニケーション能力を磨きたいと考える人

(3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

平成 23 年度の学生数の状況 (平成 23 年 5 月 1 日現在) (単位 人)

学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
総合生活学科	100	64	200	150
食物栄養学科	80	87	160	182
幼児教育学科	150	166	300	332
計	330	318	660	664

(4) 入学者、退学者、除籍者、中退者数、中退率及び留年者数の推移

(単位 人)

年度	学科	入学者数	在籍者数 (A)	退学者数 (B)	除籍者数 (C)	中退率(% (B)+(C) / (A)	留年者数
H20 年度	総合生活学科	80	155	8	3	7.1	4
	食物栄養学科	89	179	2	0	1.1	2
	幼児教育学科	145	308	2	1	1.0	2
	計	314	642	12	4	2.5	8
H21 年度	総合生活学科	55	131	3	3	4.6	4
	食物栄養学科	75	164	3	0	1.0	1
	幼児教育学科	167	311	5	0	1.6	1
	計	297	606	11	3	2.3	6
H22 年度	総合生活学科	87	143	6	2	5.6	3
	食物栄養学科	95	169	2	0	1.2	2
	幼児教育学科	166	332	3	0	0.9	2
	計	348	644	11	2	2.0	7

(5) 社会人学生、留学生及び海外派遣学生数（平成23年5月1日現在）（単位 人）

学科名	社会人学生数					留学生及び海外派遣学生数				
	1年	2年			計	1年	2年			計
総合生活学科	0	0			0	0	0			0
食物栄養学科	0	7			7	0	0			0
幼児教育学科	2	1			3	0	0			0
合計	2	8			10	0	0			0

※社会人学生数、留学生数は、それぞれ社会人入試、外国人留学生入試によって入学した学生数である。

(6) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他

平成23年3月卒業生の進路先決定状況（平成23年5月1日現在）（単位 人）

学科名	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	その他 (就職を希望しない)
総合生活学科	51	41	39	95.1%	2	8
食物栄養学科	72	64	63	98.4%	8	0
幼児教育学科	163	157	150	95.5%	0	6
計	286	262	252	96.2%	10	14

(7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

平成23年度開講授業科目シラバス

[総合生活学科](#)

[食物栄養学科](#)

[幼児教育学科](#)

(8) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準

①学修の成果に係る評価

平成23年度開講授業科目シラバス

[総合生活学科](#)

[食物栄養学科](#)

[幼児教育学科](#)

②卒業の認定に当たっての基準（必修・選択科目別の必要単位修得数）

卒業に必要な最低修得単位数は、次のとおりとする。

学科名	科目区分	卒業に必要な最低修得単位数	修得すべき「必修科目」の単位数		在学年数
総合生活学科	教養科目	12	総合生活学科	6	2年以上在学すること。
食物栄養学科			食物栄養学科	10	
幼児教育学科			幼児教育学科	4	

	専門教育科目	50	総合生活学科	21	
			食物栄養学科	27	
			幼児教育学科	29	
	計	62	総合生活学科	27	
			食物栄養学科	37	
			幼児教育学科	33	

③取得可能学位

<総合生活学科>

短期大学士（生活学）

<食物栄養学科>

短期大学士（食物栄養学）

<幼児教育学科>

短期大学士（幼児教育学）

④学位授与数

卒業年月	学科	卒業生数 (学位授与数)
H21.3	総合生活学科	65
	食物栄養学科	88
	幼児教育学科	160
	計	313
H22.3	総合生活学科	69
	食物栄養学科	87
	幼児教育学科	140
	計	296
H23.3	総合生活学科	50
	食物栄養学科	72
	幼児教育学科	162
	計	284

(9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

①修学に係る支援

クラス担任制

学科単位で各学年にわたり担任制を取り入れ、履修相談、学生生活相談、就職・進路相談等に対応している。出欠状況、単位取得状況等を教務課から各担任に適宜知らせ、担任は年度初めの学生との懇談のほか、個人面談でそれぞれの学生の状況を把握し指導・支援するように努めている。

障がいをもった学生の修学の支援

本学では平成 19(2007)年 2 月に「障害をもった学生の修学の支援要項」を制定し、障がいをもつ学生の受け入れが生じた場合の学習支援体制を整備した。

障がいの程度は、学生ひとり一人に差があるので、学生支援委員が本人及び保護者から配慮すべき事項を確認し、その事項を全教職員に周知徹底することによって、学習支援体制を確立している。

学習スペースの確保

キャンパス内で学生が快適に学べる環境を提供するため、図書閲覧室を学習スペースとして開放した。その結果、利用者が絶えない状況となっている。また、学習スペースの利便性を高めるため、九品寺分館は閉館時間を 19 時 5 分に延長し、中央館はグループ学習用のスペースと個人学習用のスペースを分離するという工夫を行っている。

②進路選択に係る支援

本学では、入学年度から年 2 回のキャリアガイダンスを実施して、学生の進路選択を早い段階からサポートしている。また、各学科の授業に組み込んでいる就職指導の時間においても、進路選択についてきめ細やかな指導を実施している。特に、大学への編入学希望者に対しては、進路支援担当教員からアドバイスをを行っている。

③心身の健康等に係る支援

学生の健康面については、学生支援課で毎年度初めに全学生を対象に健康診断を行っている。日々の健康相談は、保健室の養護教諭により行い、毎年「疲労蓄積調査」を実施し、その結果を学生個人に知らせるとともに、結果によっては保健室に相談に行くよう勧めている。また、心的支援は養護教諭と臨床心理士の資格を持つカウンセラー（非常勤）により行われている。その他の学生の相談には、各学科の学生支援委員と学生支援課職員がクラス担任と連携を取り回り、さらにオフィスアワーも活用して細やかに対応している。

④その他学生支援の状況

本学では学生サービス、厚生補導のための組織として学生支援委員会及び各キャンパスに部会を設置し、学生支援課との連携により、学生会行事関係、奨学金関係、健康管理関係、その他福利厚生関係の業務を行っている。

学生に対する経済的な支援として、日本学生支援機構奨学金をはじめとして、地方公共団体や民間団体の奨学金の募集を行い、手続きを行っている。日本学生支援機構奨学金については、年度初めのオリエンテーションで奨学金制度を詳細に説明し応募者を募っている。家庭の事情等の個人情報に十分に配慮しながら、クラス担任による個別面談と学生支援課の担当者による相談や手続きの指導を行っている。最終的な応募者は学生支援委員会で承認を受け申請する。予約奨学生や入学後の新規採用者は年々増加しており、また、家計の急変により 2 年次や 3 年次で新規応募する学生も増加している。地方公共団体や民間団体の奨学金については、それぞれの募集案内を掲示し、希望者にそれぞれの制度を説明して応募させている。

さらに、学生への経済的な援助策として、平成 20 年度に本学独自の「緊急的授業料免除制度」を制定した。この制度は、学生としての修学態度が標準に達していると認められる

学生にあって、学資負担者が死亡もしくは被災など不慮の事由により授業料の納付が著しく困難であると認められる者又はこれらに準ずる場合で理事長が相当と認める者を対象とし、各学期分の授業料についてその全額又は一部を免除する制度である。

また、本学では学生サービスに対する学生の意見や要望を把握するため毎年「学生生活に関する実態調査」のアンケートを実施して家庭、経済、学習環境、部活、ボランティアなどの実態と問題点を調査している。アンケート結果は学生支援委員会で各学部・学科別に集計・評価され各学部・学科の教員に配布し、学生支援委員並びに各クラス担任により改善・対応策をとる仕組みになっている。さらに、学内に学生支援委員会による「意見箱」を設置し、施設・設備の学習環境のみならず、学生生活全般に関する学生の様々な意見や要望を汲み上げるようにしている。

⑤社会貢献活動

地域社会に寄与することを目的として、大学部と共同で、1990年（平成2年）から夏季休業期間に公開講座を実施しており、本年まで22回の開催で延べ1万6千名余の受講者があり、好評を博している。

(10) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

平成23年度開講授業科目シラバス

[総合生活学科](#)

[食物栄養学科](#)

[幼児教育学科](#)

平成23年度カリキュラム

総合生活学科

食物栄養学科

幼児教育学科

3. 財務情報

- (1) [平成22年度財産目録](#)
- (2) [平成22年度貸借対照表](#)
- (3) [平成22年度資金収支計算書](#)
- (4) [平成22年度消費収支計算書](#)
- (5) [平成22年度事業報告書](#)
- (6) [監査報告書（平成22年度決算）](#)
- (7) [平成22年度決算の概要報告](#)
- (8) [平成23年度学生生徒数の状況（平成23年5月1日現在）](#)